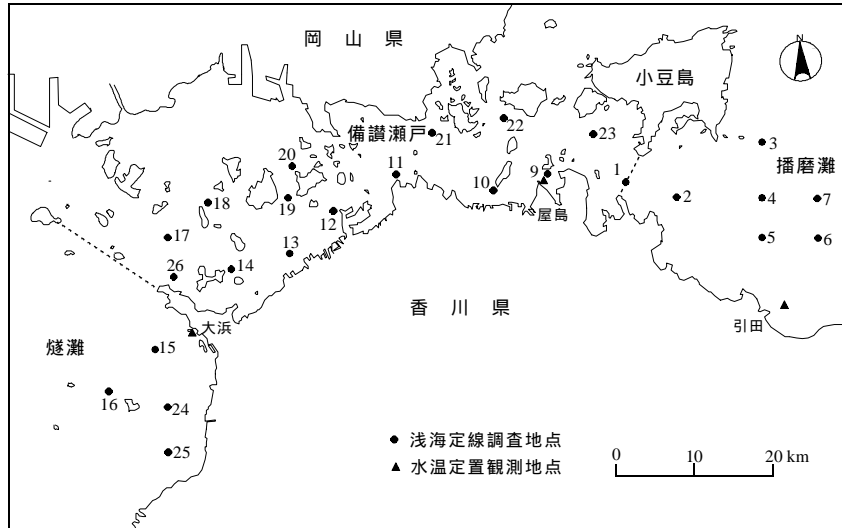


香川県漁海況速報 平成16年 8月 (H16- 5号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成16年8月3日(播磨灘) 4日(備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「平年並みから著しく高め」、塩分は「著しく低めからやや高め」、透明度は「著しく低めからやや低め」、溶存酸素は「かなり低めからかなり高め」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	25.7	25.2	24.8	31.7	31.9	32.3	6.3	4.12	3.65
	平年値	25.5	24.2	22.4	31.4	31.6	31.8	8.3	5.24	3.46
	平年偏差	0.2	1.0	2.4	0.2	0.3	0.5	-2.0	-1.12	0.19
	状況	平年並み	かなり高め	著しく高め	平年並み	平年並み	やや高め	やや低め	やや低め	平年並み
備讃瀬戸	14地点平均値	26.0	25.8	25.7	31.3	31.4	31.4	2.6	3.62	3.58
	平年値	25.2	24.6	24.3	31.5	31.6	31.8	5.2	4.51	4.22
	平年偏差	0.7	1.2	1.4	-0.2	-0.2	-0.4	-2.6	-0.89	-0.64
	状況	やや高め	やや高め	かなり高め	平年並み	平年並み	やや低め	かなり低め	かなり低め	やや低め
燧灘	4地点平均値	27.7	25.9	24.8	28.4	31.6	31.7	4.4	6.30	3.00
	平年値	27.4	23.8	21.7	31.6	32.0	32.2	10.5	5.09	3.37
	平年偏差	0.3	2.1	3.0	-3.2	-0.4	-0.6	-6.1	1.21	-0.37
	状況	平年並み	著しく高め	著しく高め	著しく低め	やや低め	やや低め	著しく低め	かなり高め	平年並み

平年偏差 = 平均値 - 平年値

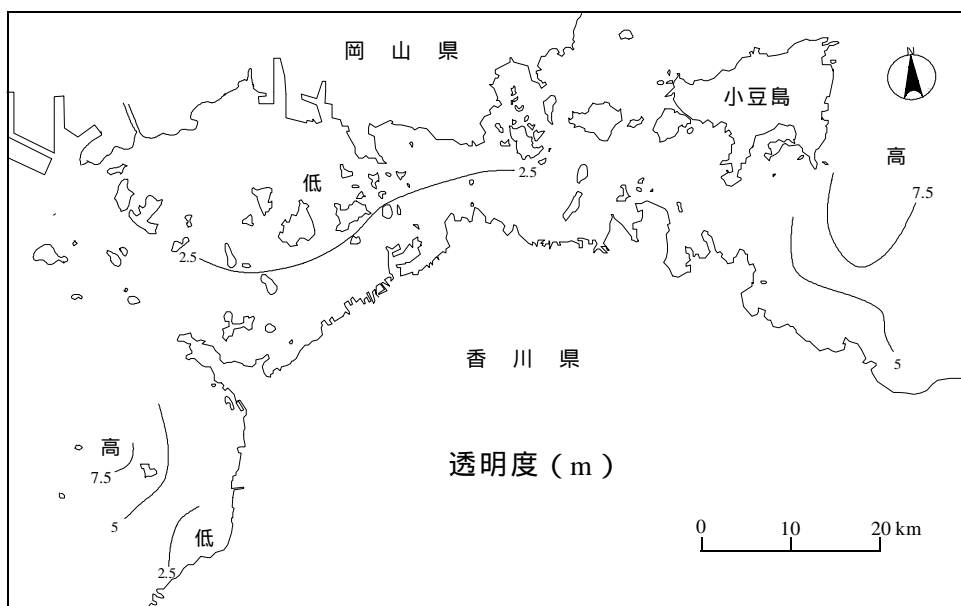
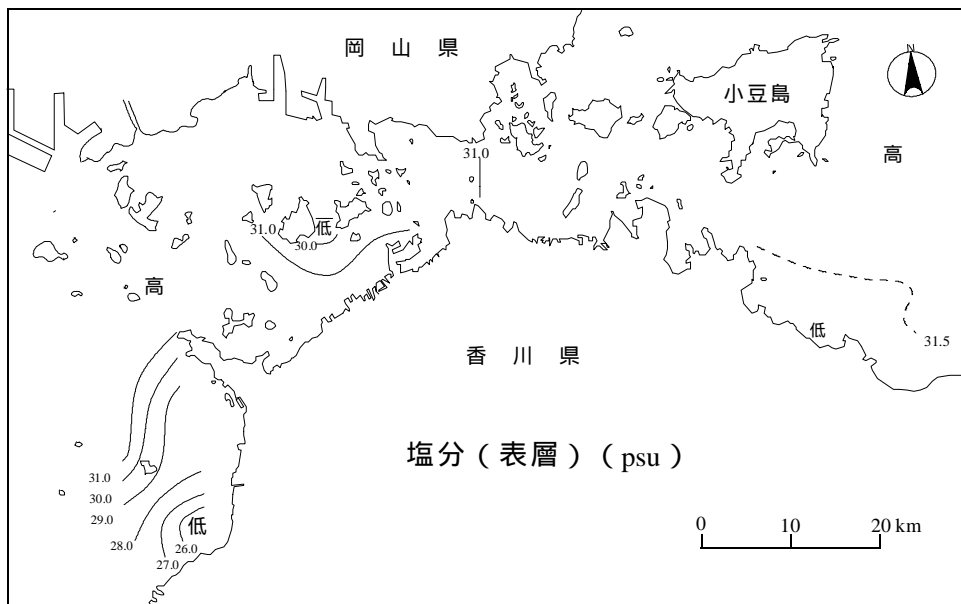
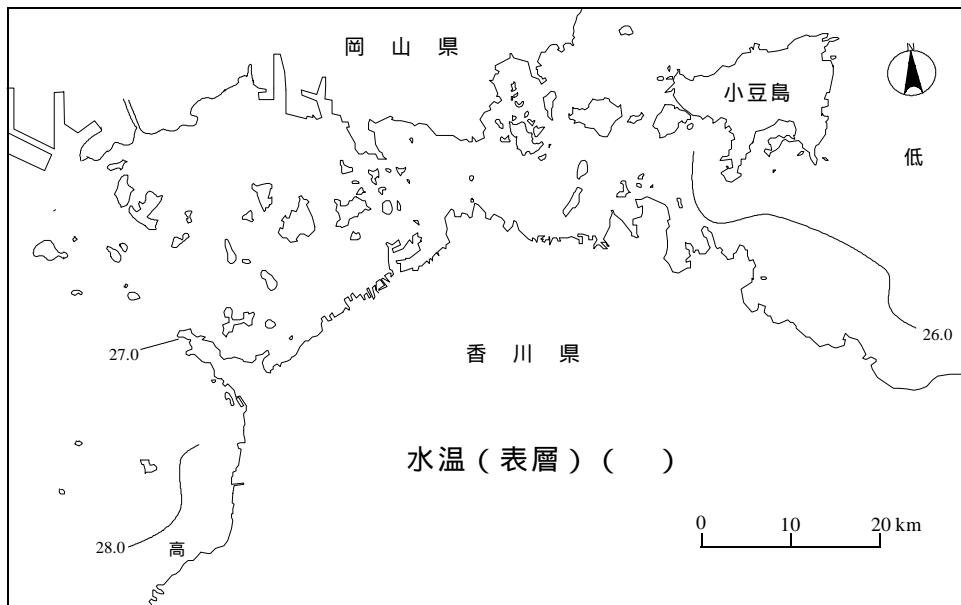
平年値の算出期間 水温及び塩分：昭和47(1972)～平成13(2001)年度

透明度：昭和58(1983)～平成13(2001)年度

溶存酸素：昭和55(1980)～平成9(1997)年度

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め(やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め(かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め(著しく低め)	2.0	平年偏差	



2) 定置観測(水温)

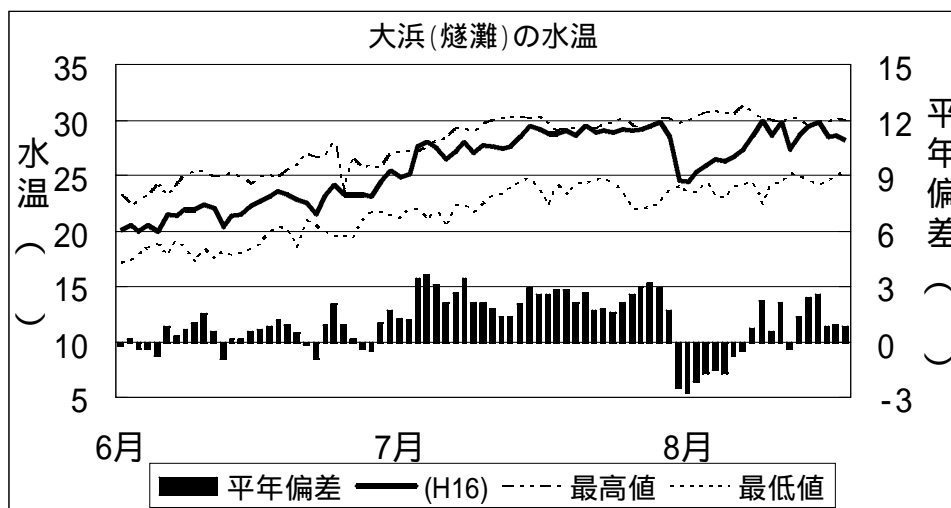
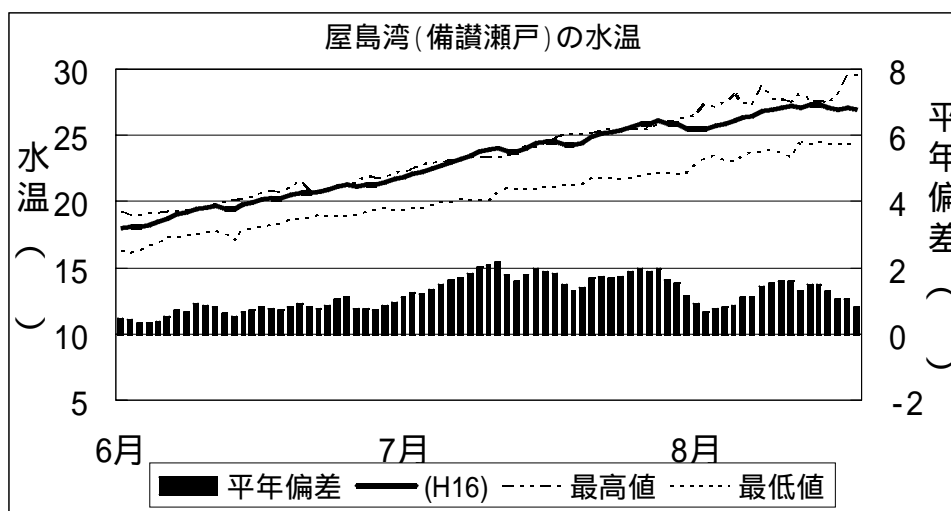
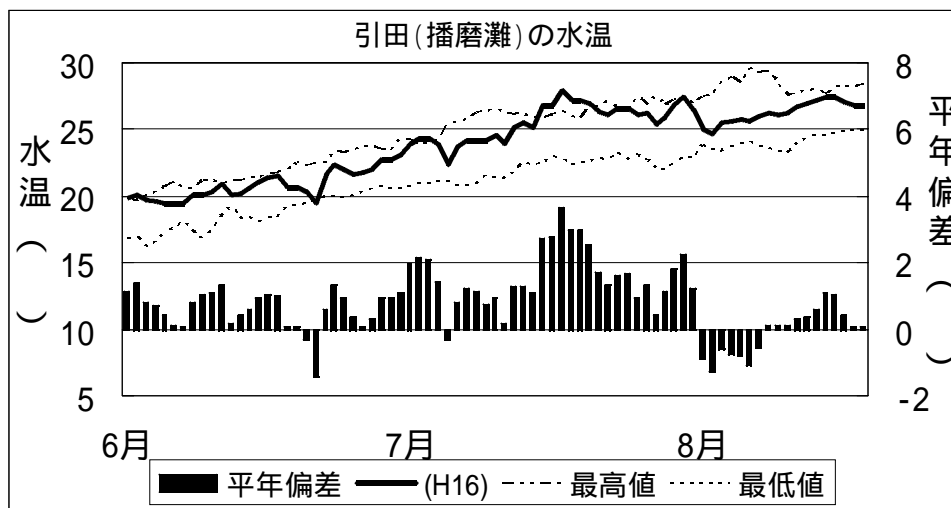
播磨灘(引田): 7月は上旬の一時期を除き平年偏差が2 前後で推移し, 月末の台風で低下した。8月上旬 - 1 弱で推移した後, プラスに転じ推移している。

備讃瀬戸(屋島): 7月は平年偏差が 1.8 前後で推移し, 月末の台風で一時偏差が小さくなった。8月に入り中旬まで大きくなった後, 減少傾向で推移している。

燧灘(大浜): 7月は平年偏差が - 2 前後で推移し, 月末の台風で大きく低下した。8月に入り上昇に転じ中旬には2 前後で推移した後, 減少傾向で推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成14(2002)年

屋島: 昭和50(1975)~平成14(2002)年



3) 赤潮

播磨灘：発生なし。

備讃瀬戸：8月中旬、東部（直島地先）で *Skeletonema costatum* による赤潮が発生した。

燧灘：8月上旬、南東部で *Skeletonema costatum* による赤潮が発生した。

4) 卵稚仔

調査日：平成16年8月3日（播磨灘）、4日（備讃瀬戸、燧灘）

出現量

個（尾）/ 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	6.60	0.40	0.00	0.00	0.00	0.00	8.50	10.30
備讃瀬戸平均	0.10	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	10.10	6.00
燧灘平均	110.60	16.70	0.00	0.00	0.00	0.00	15.10	11.10
総平均	27.63	4.03	0.00	0.00	0.00	0.00	10.83	8.33

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	39.5%	4.5%	-	-
備讃瀬戸平均	9.0%	11.4%	-	0.0%
燧灘平均	619.3%	274.7%	-	-
総平均	301.0%	95.3%	-	-

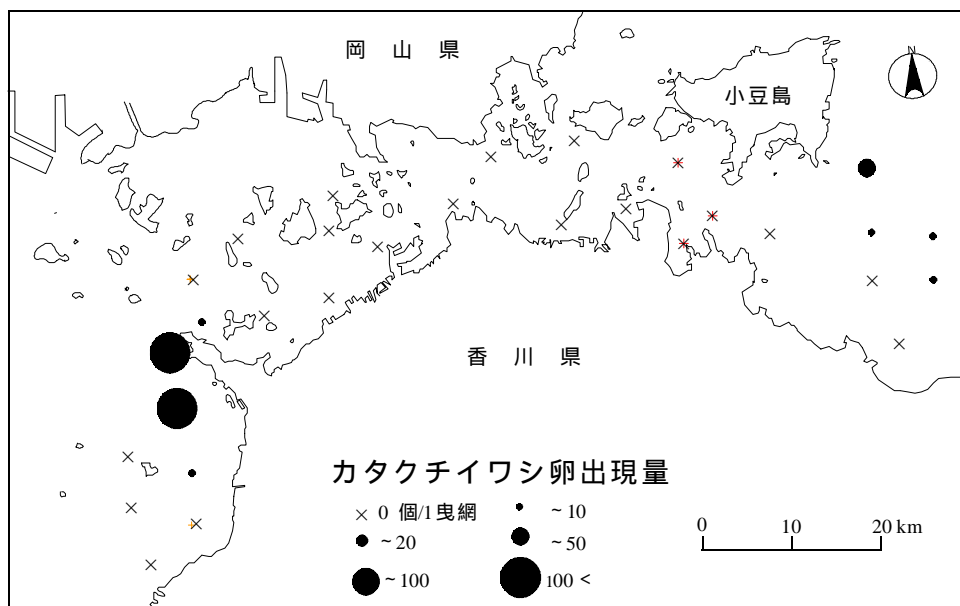
- : 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55（1980）～平成15（2003）年度

マイワシ：平成5（1993）～平成15（2003）年度

各調査点のカタクチイワシ卵の出現量は、次のとおりである。



2. 漁況

7月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網は全般的に低調で、推移している。</p> <p>大型定置網ではマアジ（0才魚）が好漁であるが、全般的に低調である。</p> <p>7月までのシラスの船びき網の漁獲量は、前年の約2分の1の不漁で8月に入って殆ど休漁状態である。</p> <p>7月20日頃に赤潮の影響を受けて東讃海域のます網に大量のメバル類が漁獲された。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、マダコ、小型エビ類が漁獲されている。</p> <p>マナガツオ流し刺網は前月同様低調な漁獲が続いている。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主にシャコ、メイタガレイ、テナガダコ、シロギス、コチ類、小型エビ類を漁獲しているが、8月に入って小型エビ類、クルマエビの漁獲が非常に少なくなった。</p> <p>イワシ機船船びき網の7月の漁獲量は前年の52%と大きく減少したが、7月までの漁獲量は6月の大羽の豊漁に助けられほぼ前年並みであった。</p>